

科目	老年期障害作業療法学	担当	竹田 徳則	履修学年	2年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	必修	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】

認知症高齢者を含めた老年期障害の作業療法が、単に機能訓練中心ではなく、QOLの維持・向上につながる作業療法について、評価ならびに作業活動を活用した治療と訓練の実際を理解する。受講者は老年期障害に関する、①作業療法の特徴を説明できるようになること、②特徴的な評価を説明できるようになること、③非薬物療法としての各種作業活動を用いた作業療法介入の修得を目標とする。

【履修注意】

毎回出席を原則とする。

本科目では、超高齢社会に伴う、保健・医療・福祉の動向を意識しながら、今後増加が確実な老年期の障害に対する作業療法士の役割を学んでほしい。なお、予定変更の場合もある。

【評価方法】

出席、少テスト、課題提出、中間試験、期末試験を総合して評定する。

【試験について】

記述試験

再試験対象者の条件：総合評定60点未満の者とする。

【予習・復習】

前回授業内容の重要点を毎回確認する。

学生は、毎回の講義に対して45分の予習・復習が必要である。

【教科書】

認知症の作業療法(第2版)：小川敬之・竹田徳則(編著)。出版社：医歯薬出版。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	老年期作業療法総論	超高齢化・老年期の心身の特徴・複合障害
2	老年期作業療法各論①	要介護高齢者・認知症・うつ・心理社会面
3	老年期作業療法各論②	健康高齢者・虚弱高齢者・高次生活機能
4	老年期作業療法各論③	評価・認知機能評価・精神機能評価
5	老年期作業療法各論④	行動評価・ADL・IADL・認知症評価
6	老年期作業療法各論⑤	評価演習・認知機能評価・精神機能評価
7	前半のまとめ	前半の復習・確認・まとめ
8	老年期作業療法各論⑥	作業療法介入・個別活動・集団活動・非薬物療法
9	老年期作業療法各論⑦	認知症・作業療法介入・作業活動・心理社会面
10	老年期作業療法各論⑧	認知症・作業療法介入・作業活動・心理社会面
11	老年期作業療法各論⑨	介護老人保健施設・作業療法介入・作業活動
12	老年期作業療法各論⑩	認知リハビリテーション・作業療法・記憶代償
13	老年期作業療法各論⑪	回想等非薬物療法を用いた作業療法
14	老年期作業療法各論⑫	回想等非薬物療法を用いた作業療法
15	老年期作業療法各論⑬	一般高齢者・虚弱高齢者・介護予防・作業療法
16	期末試験	15コマの復習・確認・まとめ